

第6学年 国語科学習指導案

令和3年 9月29日

6年 男6名 女11名 計15名

- 1 単元名 作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう
 (教材名「やまなし」 資料「イーハトーヴの夢」 光村図書6年)

2 単元構想

指導を行うにあたって	
<ul style="list-style-type: none"> これまで、作品を読み表現の特徴を考えたり、人物像や作品の全体像を捉え自分の考えをまとめたりする学習を行っている。 本単元は、豊かな表現や特徴的な作品の構造を捉え、物語の世界観について自分の考えをまとめる学習を行うのに適している。 宮沢賢治の生き方と重ね合わせながら作品世界を捉え、自分の考えをまとめるように指導する。 	
単元を通して身に付けたい力	評価規準
◎ 豊かな表現や特徴的な作品の構造を捉え、作品について自分の考えをまとめること。 [思考力, 判断力, 表現力等] C(1) オ ○ 題名の象徴性や表現技法に着目して、作品を読むこと。[思考力, 判断力, 表現力等] C(1) エ ○ 比喻や反復などの表現の工夫に気づくこと。 [知識及び技能] (1) ク ○ 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度。 「学びに向かう力, 人間性等」	【知・技】 比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。(1(ク)) 【思・判・表】 文章を読んで理解したことに基いて自分の考えをまとめることができる。(C(1) オ) 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1) エ) 【態】 学習の課題に沿って豊かな表現や特徴的な作品の構造を捉え、粘り強く作品について自分の考えをまとめようとしている。

3 単元の指導計画 (8時間)

学習過程	学習課題	評価
見通す	1 読後感想を交流し、学習の見通しをもとう。	
	2 宮沢賢治はどんな人だろう。	
深める・まとめる	3 2枚の幻灯を絵に表し、谷川はどんな世界か見えるようにしよう。	【知・技】 比喻や反復などの表現の工夫や対比の効果に気付いているかの確認 (記述・発言) 【思・判・表】 「五月」と「十二月」の谷川を対比しながら読み、題名について考えているかの確認 (記述・発言) 【態】 表現や構成等に注目して作品世界を捉え、根拠や理由を明らかにし、自分の考えを書こうとしているかの確認 (記述)
	4 かこの兄弟にとって、谷川はどんな世界だろうか。	
	5 「五月」と「十二月」を比べて、分かることは何だろう。	
6 本時	なぜ「十二月」にしか登場しない「やまなし」を2枚の幻灯全体の題名としてつけたのだろう。 〈板書を活用した思考の視覚化〉 〈思考や表現を促すためのコーディネート〉	
広げる	7 作者が「やまなし」にこめた思いについて考え、理由を明らかにして自分の考えをまとめよう。(200字程度)	【態】 「やまなし」の作品の世界観について考えたことを交流し、友だちの考えを聞きながら作品のとらえ方を広げたり深めたりしようとしているかの確認 (観察)
	8 「やまなし」についての考えを交流し、学習をふり返ろう。	

4 本時の指導（ 6 / 8 時間）

(1) 目標

題名の象徴性や構成に着目して、作品を読むことができる。

(2) 授業展開や考えを深めるための工夫

- ・「五月」と「十二月」を対比できるように板書に表す。
- ・「題名は『かわせみ』でもよいか。」「『五月』が後でもよいか。」と問うことを通し、なぜ、「十二月」にしか出てこない「やまなし」を題名にしたのか考えさせる。

(3) 展開

	学習活動	形態	学習内容 評 価
導入 5分	1 前時の学習を想起する。 2 本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> なぜ「十二月」にしか登場しない「やまなし」を2枚の幻灯全体の題名としてつけたのだろう。 </div>	全	○前時までには、かへの兄弟や読者の自分たちにとって「五月」と「十二月」はどんな世界だったのかについて学習したことを簡単に振り返り、本時は、題名「やまなし」について考えることを確認する。
展 開 35分	3 「五月」と「十二月」の場面对比的にまとめ、交流する。 (1) 「五月」と「十二月」の場面を振り返り、どんな世界と言えたのか確かめる。 (2) 作品の構成について考える。 4 なぜ題名を「やまなし」にしたのか考える。 (1) 個人で考える時間を取った後、3人グループで交流する。 (2) 交流したことを発表しながら全体で考える。 5 みんなで話し合ったことをもとにまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 〈子供の記述例〉 ・賢治は、この作品の題名を「やまなし」として、こわい出来事があったとしても、楽しみなことやよいこともあるよということを伝えられたと思った。 ・賢治は、米がとれなくて苦しいことがあっても、その後にはいいことがあるよと伝えたくて、「やまなし」という題名にしたと思う。 </div>	全 個 グ 全 個	○対比的な表現や、独特な表現技法を使っていたことなどを振り返る。 〈板書を活用した思考の視覚化〉 ○「五月」と「十二月」の構成について考える。 〈思考や表現を促すためのコーディネート〉 ○「五月」と「十二月」2枚の幻灯の「十二月」にしか登場しない「やまなし」を題名にしたのか考え、3人グループで交流する。 ○『五月』の谷川はなくてもよいのではないか。」または、「題名は『かわせみ』でもよかったのではないか。」と（補助）発問し、題名がもつ意味について明らかにしていく。 〈思考や表現を促すためのコーディネート〉 ○話し合ったことをもとに自分の言葉でまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【思・判・表】「五月」と「十二月」の谷川を対比しながら読み、なぜその題名にしたか話し合うことを通して題名や作品が伝えている世界について考えているかの確認（発言・記述） </div>
終 末 5分	6 本時を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ・題名には、作者の伝えたいことがふくまれているので、題名に注目して読むことが大切だと思った。 ・対比に着目して読むことで、はっきり伝えたいことが分かる。「かわせみ」と「やまなし」の対比的な表現から、題名の意味が分かった。 </div> 7 次時の学習の見通しをもつ。	個 全	○「今日の学習で大切だと思ったこと」を振り返る。 ○次時は、「やまなし」はどんな作品か、自分の考えをまとめることを確認する。